

## 宮北隆志先生の業績を振り返る

中地 重晴

熊本学園大学水俣学研究センター長

### はじめに

宮北先生は京都大学工学研究科衛生工学修士課程終了後、1977年4月から熊本大学医学部衛生学教室の助手、講師を歴任された後、2003年4月から熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科教授として赴任されました。原田正純先生が提唱された水俣学研究グループに加わり、2005年8月水俣学現地研究センター設立とともに現地研究センター長を2022年3月まで務められ、2023年3月定年退職されました。

2017年夏に食道がんが見つかり、手術を受けられ、その後、体調がすぐれず、思うような教育、研究活動ができないまま、退職されました。先生の御業績を振り返りたいと思います。

### 水俣学現地研究センター長として

先生の専門は衛生学で、騒音で、沖縄の嘉手納基地の爆音訴訟に証人として関わられました。本学に赴任されてからは、主に水俣のもやい直しに始まるまちづくりについて、研究されてきました。水俣学研究センターの研究プロジェクト2「地域再構築モデルの提案と実践」の中心メンバーとして、調査・研究活動を実施されました。地元のさまざまな関係者（被害者団体、市民/農漁民、NPO、行政、企業、元チッソ労働者、地域経済団体など）と協働して、地域再構築の方向性を探り、戦略的な政策提言が可能なプラットフォームを構築されました。

水俣学現地研究センターで、2006年から課題検討会を継続的に開催し、2008年12月には、ゼロ・ウェイスト円卓会議を発足させられました。水俣のまちづくり、環境首都水俣をどのように作っていったらよいかを検討していく中で、課題検討会を「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」となるよう地域戦略検討会と名称変更し、ごみ問題だけでなく、観光と公共交通、エネルギーと産業などの円卓会議を組織されました。

そうした市民との議論、協働作業の成果を、2010年5月『水俣学ブックレット⑧失敗の教訓を活かす～持続可能な水俣・芦北地域の再構築』としてまとめられ、熊本日日新聞社から出版されました。課題検討会は2017年まで41回開催され、水俣のまちづくりに多大な貢献をなされたと思います。

残念なことに、2011年3月水俣市が、「みなまた環境まちづくり研究会報告書」を発表し、地域住民の声よりも、東京の研究者、コンサルがまとめた提案に基づいて、まちづくりのあり方を変更したため、円卓会議は開催されなくなりました。体調を崩されたこともあり、総括できずに今に至ります。

## タイNGOとの海外調査活動

2010年頃からは、タイのNGOと協働して、東南アジアで最大規模の石油化学コンビナートであるマプタプット工業団地の操業による公害、工場災害について、工業団地と住民との共存について、調査、研究を開始されました。2013年からは、タイ北部のルーイ県の金鉾山による環境汚染と地域住民のまちづくりに関わられました。水俣の経験を伝える中で、綿花栽培をきっかけにした地域おこしに協力されました。

## 「かんくま」での活動

1994年10月に、環境問題に取り組む熊本県内外の個人・グループをゆるやかにつなぐネットワークとして、環境ネットワークくまもと（愛称 かんくま）の設立に参加されました。2002年から副代表、2008年から2017年まで、代表理事を務められ、持続可能な農的暮らしと健康な地域社会の実現をビジョンとして掲げ、そのプロセスへの多様な市民の参画と協働のしくみづくりと場づくりを実践されました。研究者と市民活動家の二足のわらじを履いて、研究者と市民の協働によるまちづくりを実践されました。

かんくまでは、全国の環境問題に取り組む市民団体と共に、グリーンコンシューマーを育てる活動や環境首都コンテストを主催されました。2011年3月環境首都コンテスト全国ネットワークから水俣市が「環境首都」の称号を受けることに、尽力されました。

## さいごに

宮北先生は、大学の研究者として、水俣やタイのマプタプットやルーイのまちづくりを研究するだけでなく、市民と協働して、実践者として関わるという稀有な存在でした。市民にとって力強い応援者として、研究者生活を送ってこられました。惜しむらくは、最後の数年間、体調を崩され、まとめができなかったことは心残りだと思います。体調のことも気がかかりますが、ご自身で、まとめられることを期待したいと思います。長い間、御苦労さまでした。



タイ・ルーイ県にて  
2014年9月撮影



タイ・ルーイ県ナーノンボン村の村人たちと  
2016年12月撮影

## 宮北隆志先生の経歴・研究業績

## 経歴

- 1952年 大阪府生まれ
- 1975年 3月 京都大学工学部衛生工学科卒業
- 1977年 京都大学大学院工学研究科修士課程（衛生工学専攻）修了
- 1977年 熊本大学医学部衛生学講座助手
- 1984年 医学博士（熊本大学）
- 1987年 熊本大学医学部衛生学講座講師
- 1991年 文部省在外研究員  
（スウェーデン・イエテボリ大学、アメリカ・ノースカロライナ州立大学）
- 1994年 JICA海外派遣専門家（フィリピン労働安全衛生センター）  
9月 環境ネットワークくまもと副代表（2007年まで）
- 2003年 4月 熊本学園大学社会福祉学部教授  
健康くまもと21推進市民会議理事
- 2005年 8月 水俣学現地研究センター長（2022年3月まで）
- 2007年10月 NPO法人環境ネットワークくまもと代表理事（2017年3月まで）
- 2008年 水俣市環境モデル都市推進委員会アドバイザー
- 2011年 7月 熊本県健康食生活・食育推進連携会議会長
- 2017年 4月 NPO法人くまもと未来ネット副代表理事（現在に至る）
- 2023年 3月 熊本学園大学退職
- 2023年 4月 熊本学園大学名誉教授

## 研究業績

## 著書・共編著・監修

- 『水俣学ブックレット3 ガイドブック 水俣を歩き、ミナマタに学ぶ』（熊本学園大学水俣学研究センター編著）、熊本日日新聞社、2006。
- ‘Minamata studies booklet N0.5 Guidebook: Walk in Minamata, Learn from MINAMATA’ Open Research Center for Minamata Studies,’ Kumamoto Gakuen University, Kumamoto Nichinichi Shinbun, 2006.
- 『水俣学講義 第3集』（原田正純編著）、日本評論社、2007、「カナダ水俣病」原田正純、宮北隆志著、pp.199-240。
- 『水俣学講義 第4集』（原田正純・花田昌宣編著）、日本評論社、2008、「『環境モデル都市』

- 水俣と産廃処分場計画」 pp.127-164。
- 『環境首都コンテスト 地域から日本をかえる7つの提案』（環境首都コンテスト全国ネットワーク財団法人ハイライフ研究所編著）、学芸出版社、2009、「戦略的に事業を組み立てる～将来像実現の道筋を明確にし、実行する～」 pp.76-103。
- 『水俣学ブックレット3 ガイドブック 水俣を歩き、ミナマタに学ぶ 改訂版』（熊本学園大学水俣学研究センター編著）、熊本日日新聞社、2009。
- 『水俣学ブックレット8 失敗の教訓を活かす～持続可能な水俣・芦北地域の再構築』熊本日日新聞社、2010。
- ‘*Environmental Governance*,’ 2011, ‘Realizing Sustainable Moinamata and Ashikita Region and Minamata Studies’, pp.1-7.
- 『水俣学講義 第5集』（花田昌宣・原田正純共編著）、日本評論社、2012、「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」 pp.235-268。
- 『人と鉱山 ルーイの未来』（タイ語版監訳）、熊本学園大学水俣学研究センター、2011。
- 『人と鉱山 ルーイの未来』（英語版監訳）、熊本学園大学水俣学研究センター、2012。
- 『水俣学ブックレット9 水俣からのレイトレッシン』（熊本学園大学水俣学研究センター編）、熊本日日新聞社、2013、「地域戦略プラットフォームを核とした市民参画・協働の取り組みと『水俣学』」 pp.71-84。
- 『蘇陽風とくらしと健康ーわたしたちのヘルスプロモーション実践報告』（福本久美子・星旦二編）、熊本日日新聞社、2013、「高齢者の社会参加と耳のバリアフリー・プロジェクト～『生活』に根ざしたヘルスプロモーションの実践～」 pp.132-150。
- ‘*Risky engagements: encounters between science and art* Ed. by R.Cox and A. Cary,’ IUniv. of Manchester, 2013, ‘Minamata disease and revitalization’, pp.20-21.
- 『活性化するタイの地域健康影響評価 CHIA』（監訳）、熊本学園大学、水俣学研究センター、2013。
- 『人と鉱山 ルーイの未来』（日本語版監訳）、熊本学園大学水俣学研究センター、2014。
- 『福島・三池・水俣から「専門家」の意見を問う』（三池CO研究会編）、弦書房、2014「寄稿 水俣から『中央』と『地方/地域』－差別と犠牲のシステム・国策に翻弄される地域」 pp.114-120。
- 『地域健康影響評価 タイ・チャチェンサオ県、パノムサーラカム郡、タンボン Khao Hinsorn における石炭火力発電所の事例』（日本語版監訳）、熊本学園大学水俣学研究センター、2015。
- 『よくわかるヘルスコミュニケーション』（池田理知子・五十嵐紀子編）、ミネルヴァ書房、2016、「ヘルスプロモーションの理念と健康格差」 pp.128-129。

## 論文

- 'Behavior and lifestyle factors related to quality of life in junior high school students' (共著)  
『Environmental Health and Preventive Medicine』10, 2005, pp.94-102.
- 「『環境モデル都市』水俣と産廃処分場－今なぜ水俣に、しかも湧水の豊富な上水道水源の上流域に？」『環』23、2005、pp.332-341。
- 'The Okinawa study: Effects of chronic aircraft noise exposure on daily lives and the health of residents near the U.S. Bases' (共著), Proceedings of KSEH・Minamata Forum 2005, 2005, pp.23-34.
- 「航空機騒音による生活妨害と健康影響の関係－嘉手納飛行場周辺での疫学調査に基づく考察」(共著)『日本騒音制御工学会研究発表会講演研究論文集』2006、pp.85-88。
- 「協働の原動力としてのソーシャル・エコノミー」『くまもと わたしたちの福祉』47、2005、pp.4-5。
- 「ガバメントからガバナンスへ－英国における協働の“しくみづくり”と“ひとづくり”」『海外事情』34-1、2006、pp.153-169。
- 「公害の原点・ミナマタの“今”」『アイソムズ』128、2006、pp.52-53。
- 「水俣50年の教訓は活かされたか－環境被害に関する国際フォーラム報告」(共著)『環境と公害』36-3、2007、pp.45-49。
- 「騒音の健康リスクから見た環境基準の課題－嘉手納飛行場周辺での疫学調査に基づく考察」(共著)『日本リスク研究学会研究発表会講演論文集』2006、pp.359-364。
- 'Dose-response relationship between hypertension and aircraft noise exposure around Kadena airfield in Okinawa' (共著), *The 9th Congress of the International Commission on the Biological Effects of Noise Noise as a Public Health Problem (ICBEN)*, 2008, pp.348-353.
- 「健康に影響を及ぼす騒音の生活妨害は何か」(共著)、宮北隆志『騒音・振動研究会資料』2008-9、2008、pp.1-8。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (1)、いまこそ、『失敗の教訓』を将来に生かすとき」『労働の科学』63-2、2008、pp.100-103。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (2)、『環境モデル都市』から『環境首都』をめざす水俣市の取り組み」『労働の科学』63-4、2008、pp.232-235。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (3)、『環境首都』をめざす水俣と産廃処分場建設計画 (1)」『労働の科学』63-6、2008、pp.360-363。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (4)、『環境首都』をめざす水俣と産廃処分場建設計画 (2)」『労働の科学』63-8、2008、pp.488-491。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (5)、水俣・芦北地域『子どもの食育パートナーシップ事業の現状と課題』『労働の科学』63-1、2008、pp.624-628。
- 「『水俣学』と持続可能な社会の再構築 (6)、『水俣・芦北地域戦略プラットフォーム』の取

- り組み」『労働の科学』63-12、2008、pp.724-752。
- 「航空機騒音暴露が幼児問題行動に及ぼす影響－嘉手納・普天間飛行場周辺における調査結果」（共著）『日本衛生学雑誌』64、2009、pp.14-25。
- 「水俣・芦北地域戦略プラットフォームの発足からゼロ・ウェイスト円卓会議へ（シンポジウム 水俣の未来へ — 水俣学研究5.のあゆみの）」『水俣学研究』2、2010、pp.31-40。
- ‘Realizing Sustainable Moinamata and Shikita Region and Minamata Studies’ *Proceeding of International Conference for Environmental Governance* 2011、pp.1-7。
- 「マブタプット工業団地の拡張をめぐる諸問題の現状と課題」（共著）『水俣学研究』3、2011、pp.83-103。
- 「水俣・芦北地域戦略プラットフォームを核とした市民参画・協働の場づくりと『水俣学』『保健師ジャーナル』68、2012、pp.1004-1009。
- 「水俣の国際化 — タイにおける近代化／工業化の進展と公害問題」『月刊地理』57、2012、pp.65-72。
- ‘Minamata and Ashikita Regional Strategic Platform Providing Opportunities for Citizens’ Participation and Collaboration and “Minamata Studies” *Journal of Minamata Studies* 5、2014、pp.137-149。
- 「社会的困難に長年向き合う地域における『生活の質』と多様な主体による『地域運営』～ 公式確認から57年目を迎えた水俣病事件と水俣・芦北地域の再構築」『社会医学研究』特別号2013、第54回日本社会医学会総会講演集、2013、pp.42-43。
- 「脱水銀社会の実現に向けて ～ 採択された水銀条約の成果と課題」『流れを変える 環境市民マガジン』3、2014、pp.18-19。
- 「水俣病認定義務付け4.16最高裁判決の意義と課題—申請から棄却まで21年間の放置を断罪」『労働の科学』68-7、2013、pp.418-420。
- 「持続可能な農的暮らしと健康な地域社会の実現をめざして — 地域固有の資源を活かしたエネルギー自治」『月刊 社会教育』700 (58-2)、2014、pp.28-34。
- 「水俣病事件と“社会的合意の形成”」『流れを変える』5、2014、pp.5-6。
- 「社会的困難に長年向きあう地域における『生活の質』と多様な主体による『地域運営』（足立明氏追悼シンポジウム（京都大学）記録）、『水俣学研究』6、2015、pp.31-47。
- ‘Japan’s Decades of Social Conflict and Community Governanse:Minamata and Ashikita Regional Strategic Platform Providing Opportunities for Citizens’ Participation and Collaboration and “Minamata Studie”, *JSN Journal (Japanese Studies Association of Thailand)* 5、2015、pp.1-14。
- 「〈現地報告〉2016.熊本地震 — 被災者とともに震災と向きあった14号館避難所の45日間」『環境と公害』46-2、2016、p.59。
- 「〈コメント〉ヘルスリテラシーの視座から考える（特集 原発事故と教育：ベラルーシから福島へⅢ）」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1004、2016、pp.27-29。

- 「事例研究：化学工場における爆発災害管理とリスクコミュニケーション」（共著、宮北隆志監訳）『水俣学研究』7、2016、pp.87-106。
- 「タイにおける労働災害の発生と被災者のリハビリテーション・職場復帰」（共著）『社会関係研究』22-2、2017、pp.53-96。
- 「大学内にインクルーシブな避難所を開設 家族・地域を丸ごと受け入れた熊本学園大学の取り組み（特集：熊本地震 被災地の安全と健康－取り組み経験と課題）」『労働の科学』72-3、2017、pp.142-147。
- 「健康格差の縮小に向かう公衆衛生看護アプローチの検討 ～ A. センのケイパビリティ・アプローチを手がかりに」（共著）『社会関係研究』24-2、2019、pp.103-125。

### 学会発表

- 「子どもの食育パートナーシップ事業（第3報）～水俣・芦北地域食育推進計画策定」（久保彰子、佐藤克之、藤内修二と共同発表）、第64回日本公衆衛生学会、札幌市、2005.8。
- 「市民と行政の協働による健康・環境地域づくり活動の評価に関する一考察」第64回日本公衆衛生学会、札幌市、2005.8。
- ‘The Okinawa study: Effects of chronic aircraft noise exposure on daily lives and the health of residents near the U.S. Bases’ (Matsui Toshihito, Hiramatsu Kozo, Yamamoto Takeoと共同発表), Proceedings of KSEH・Minamata Forum, Minamata City, December, 2005.
- 「航空機騒音による生活妨害と健康影響の関係－嘉手納飛行場周辺での疫学調査結果」（松井利仁、平松幸三、山本剛夫と共同発表）、日本騒音制御工学会研究発表会、愛知工業大学、2006.9。
- 「子どもの食育パートナーシップ事業（第4報）パートナーシップの構築と強化」（久保彰子、末永英士、佐藤克之、藤内修二と共同発表）、第65回日本公衆衛生学会、富山市、2006.10。
- 「水俣・芦北地域戦略プラットフォームを核とした多面的なヘルスプロモーションの展開」第65回日本公衆衛生学会、富山市、2006.10。
- 「公害の原点・水俣の今－現状と課題」フォーラム“20世紀の公害病”第65回日本公衆衛生学会、富山市、2006.10。
- 「騒音の健康リスクから見た環境基準の課題－嘉手納基地飛行場周辺での疫学調査に基づく考察」（松井利仁、平松幸三、山本剛夫と共同発表）、日本リスク研究学会第19回研究発表会、産業技術総合研究所、つくば市、2006.11。
- 「地域における国保ヘルスアップ事業の成果について」（徳永和美、大森久光、河津佐和子、戸渡洋子と共同発表）、第66回日本公衆衛生学会、松山市、2007.10。
- 「子どもの食育パートナーシップ事業（第6報）～食育おたすけ隊の活動」（廣田富士子、永里さよ子、久保彰子、末永英士、佐藤克之と共同発表）、第66回日本公衆衛生学会、松

- 山市、2007.10。
- 「子どもの食育パートナーシップ事業（第7報）～世代間交流をととした食育文化継承事業」（永里さよ子、廣田富士子、久保彰子、末永英士と共同発表）、第66回日本公衆衛生学会、松山市、2007.10。
- 「芦北地域食育パートナーシップ事業の現状と課題 ヘルスプロモーションの視点から」公衆衛生行政研修フォーラム5 “食育推進計画と公衆衛生”、第66回日本公衆衛生学会、松山市、2007.10。
- 「産業廃棄物の不適切な処理・処分に伴う土壌・地下水汚染」台日市民社会フォーラム、台湾政治大学サードセクター研究センター、台北、台湾、2008.10。
- 「水俣市・熊本市における廃棄物政策の現状と課題」廃棄物政策に関する日韓シンポジウム、泰安郡環境管理事業所、忠清南道、韓国、2008.11。
- 「持続可能な水俣・芦北地域の実況と水俣学」国際セミナー『環境コンフリクトと大学研究の役割：日本における水俣の経験』、バンコク、タイ、2010.9。
- ‘Realizing sustainable Minamata and Ashikita region and Minamata Studies’ International Conference for Environmental Governance, Tainan, Taiwan, January10, 2011.
- 「水俣学研究センターの取り組みとマプタプット調査」日・タイセミナー『産業公害の経験と課題に学ぶ地域力の展開』、マプタプット、タイ、2011.1。
- 「水俣・芦北地域戦略プラットフォームを核とした多面的なヘルスプロモーションの展開（第3報）『円卓会議』の立ち上げから市民参画型の『資源物ステーション』調査へ」第70回日本公衆衛生学会総会、秋田県民ホール、秋田市、2011.10.20。
- ‘Quality of life and community governance in the region facing decade of social hardships-Fifty-five years experience of Minamata disease and revitalization of Minamata and Ashikita Region’ JSPS symposia 2011, The University of Manchester, kingdom of british, January6, 2012.
- 「マプタプットの環境と健康」第1回リスクコミュニケーション円卓会議、マプタプット、タイ、2012.3.2。
- 「マプタプットの環境と健康」第2回リスクコミュニケーション円卓会議、マプタプット、タイ、2012.5.15。
- ‘Experience sharing from Japan, Canada and Thailand’ 1st Community Health Impact Assessment (CHIA) Conference: CHIA for intellectual empowerment towards social and self determination, Thailand, July16-17, 2012.
- 「水俣・芦北地域戦略プラットフォームを核とした多面的なヘルスプロモーションの展開 第4報 半世紀以上にわたり水俣病事件に向き合う地域社会の現状と課題」第71回日本公衆衛生学会総会、サンルート国際ホテル山口、山口市、2012.10.25。
- 「社会的困難に長年向き合う地域における『生活の質』と多様な主体による『地域運営』～公式確認から56年目を迎えた水俣病事件と水俣・芦北地域の再構築」第71回日



本公衆衛生学会総会フォーラム（招待講演）、サンルート国際ホテル山口、山口市、2012.10.25。

'Report on Explosion and Fire at Iwakuni-Ohtake Works, Mitsui Chemicals, Inc.' Workshop on Learning the Chemical Disaster and Response on the Cases of BST Elastomers, the Map Ta Phut Industrial Estate and the Mitsui Chemicals in Yamaguchi, Japan, Rayong, Thailand, December 23, 2012.

'The Role of the Open Research Center for Minamata Studies and Research in Map Ta Phut Area' International Conference on Risk Communication and the Possibility Towards Constructive Solutions for A Healthy Future of Mmap Ta Phut, Bangkok Thailand, March 1, 2013.

「社会的困難に長年向き合う地域における『生活の質』と多様な主体による地域運営 — 公式確認から57年目を迎えた水俣病事件と水俣・芦北地域の再構築」第54回日本社会医学学会総会（シンポジウム）、首都大学東京・南大沢キャンパス、八王子市、2013.7.6。

'Minamata and Ashikita Regional Strategic Platform Providing Opportunities for Citizens' Participation and Collaboration and "Minamata Studies" The 2nd Annual Global Regional Studies Symposium, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, August 26-27, 2013.

「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治と『水俣学』」（セッション5：生存環境と政治社会）、政治社会学会（ASPOS）第4回研究大会、千里金蘭大学、吹田市、2013.11.17。

「水俣学 — 『失敗の教訓』を将来に活かす」第45回日本看護学会 — ヘルスプロモーション — 学術集会基調講演、熊本県立劇場、熊本市、2014.8.28。

「水俣市における土壌中の高濃度水銀汚染について」（中地重晴と共同発表）、第74回日本公衆衛生学会、長崎ブリックホール、長崎市、2015.11.5。

'International Conference, 'Minamata@60: Learning from Industrial Disaster towards Sustainable Society and Environment', Chulalongkorn University Bangkok, Thailand, September 10, 2016.

「平成28年熊本地震と避難所運営に関する健康医療支援体制について」（井上ゆかり・田尻雅美・花田昌宣・下地明友・中地重晴と共同発表）、第75回日本公衆衛生学会総会、グランフロント大阪、大阪市、2016.10.5。

## その他

「『環境モデル都市』をめざす水俣に大規模な産廃処分場は必要ない」『ごんずい』92、2006、pp.3-6。

「今こそ、『失敗の教訓』を将来に生かす時」『ごんずい』100、2007、pp.53-56。

「これからの50年について考える『場』としての『プラットフォーム』」『ごんずい』106、2008、pp.16-18。